

共同運営部門：中央検査部

一概要一

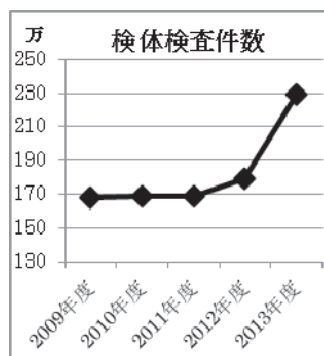
2013年度は救命救急センターとの移管統合があり、中央検査部においては、殆どの部門で検査件数が増加した。特に、検体検査部門や微生物学的検査部門、輸血検査部門については著しい増加がみられた。事前に一部の検査装置の増設や救命救急センターの検査人員の組み入れ等を行ったことにより、問題なく対応することができたが、これまでの検査件数の伸びを考えると、今後出来るだけ早く主力の老朽化した自動分析装置等を最新の検査装置に更新し、処理能力を上げる必要があると考える。

救命救急センターの検査運営については、1年前倒しして取り組んだため、比較的スムーズに移行され、業務も円滑に運営することができた。従来に比べ、検査業務が非常に効率的になり、経済的にもかなり向上した。

一各部門の概要及び実績一

<検体(生化学、免疫、血液、一般)検査部門>

検体検査件数は、救命救急センター移管統合後約230万件と急伸した。救命救急センター分の約38万件が加わっただけではなく、りんくう総合医療センター側も約12万件増加している。これは、外来検査件数の増加や病棟稼働率の上昇、重症患者受け入れ件数の増加によるものとする。



(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	73,706	77,054	77,054	85,090	78,982	78,907
血清・免疫学的検査	6,129	6,279	6,358	6,933	6,460	6,449
血液学的検査	11,379	11,687	11,757	13,236	12,075	12,430
一般検査	11,484	12,679	12,446	13,977	12,919	13,254
合 計	102,698	107,699	107,668	119,236	110,436	111,040

(外来)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	87,309	82,060	79,094	88,038	79,291	83,681	970,319
血清・免疫学的検査	7,397	6,919	6,511	7,293	6,777	6,958	80,463
血液学的検査	13,717	12,832	12,417	14,144	12,807	13,344	151,825
一般検査	14,806	13,308	13,255	14,313	13,332	13,922	159,695
合 計	123,229	115,119	111,277	123,788	112,207	117,905	1,362,302

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
生化学的検査	44,697	47,099	50,860	55,968	57,958	51,115
血清・免疫学的検査	800	963	976	968	1,002	949
血液学的検査	8,552	8,170	9,380	10,775	11,773	10,117
一般検査	7,683	8,518	9,756	11,321	12,359	9,556
合 計	61,732	64,750	70,972	79,032	83,092	71,737

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生化学的検査	56,611	59,223	58,074	61,309	54,886	59,978	657,778
血清・免疫学的検査	1,075	1,062	1,122	1,184	1,074	1,136	12,311
血液学的検査	11,729	12,315	12,662	12,584	11,282	12,699	132,038
一般検査	13,101	11,930	11,912	13,301	10,450	11,021	130,908
合 計	82,516	84,530	83,770	88,378	77,692	84,834	933,035

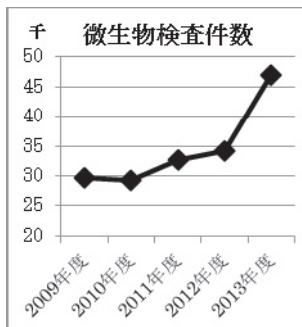


<微生物学的検査部門>

2013年4月の救命救急センターとの移管統合により、一般細菌検査が前年度の約1.3倍に増加した。それに伴い血液培養件数の増加が見込まれたため、血液培養機を更新し、検査可能本数が従来の倍となり件数増加に対応できた。実際、1患者あたりの血液培養採取本数が1セットから2セットが主流となり、件数増加とともに陽性件数も増加した。

抗酸菌検査は外来だけでなく、入院患者での検査も増加した。時間外では救命診療科からの至急のグラム染色に対応するため、技師全員がグラム染色の手技のトレーニングを行った。

細菌検査業務だけではなく、生理機能検査部門の新生児聴力検査(ABR)を担当し、他部門への協力も行っている。



(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	585	735	656	731	756	795	918	658	663	833	704	813	8,847
微生物学的検査(抗酸菌)	73	87	109	97	78	96	136	85	64	121	89	111	1,146
微生物学的検査(迅速)	95	113	90	92	87	118	94	119	145	289	249	259	1,750
合 計	753	935	855	920	921	1,009	1,148	862	872	1,243	1,042	1,183	11,743

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
微生物学的検査(一般)	2,237	2,377	2,601	3,090	3,040	2,501
微生物学的検査(抗酸菌)	21	43	67	46	74	42
微生物学的検査(迅速)	21	24	20	20	28	24
合 計	2,279	2,444	2,688	3,156	3,142	2,567

(入院)	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
微生物学的検査(一般)	3,092	2,922	3,008	3,037	2,801	3,224	33,930
微生物学的検査(抗酸菌)	80	54	70	131	88	114	830
微生物学的検査(迅速)	19	45	22	59	52	47	381
合 計	3,191	3,021	3,100	3,227	2,941	3,385	35,141



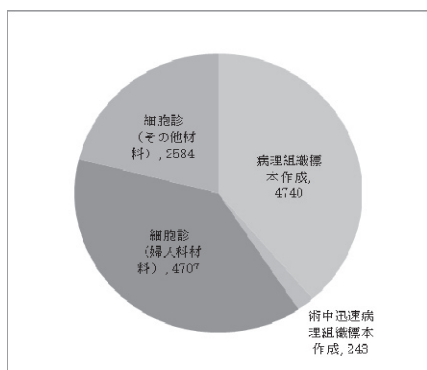
＜病理学的検査部門＞

新卒の細胞検査士を新たに迎え、5名(救命初療兼務2名、輸血部兼務1名、病理検査専従2名)での業務体制となった。閉鎖的になりがちな病理業務にあっても他部門の臨床検査業務に従事するなど、広い視野に立って業務が円滑に流れるように中央検査部の一員として取り組んでいる。

また、術中迅速病理診断における制度向上のために、最新のクリオスタート機に更新し、医療過誤防止の観点から導入した病理システムも定期的に最新のものに更新するなど診断精度の向上に努めている。

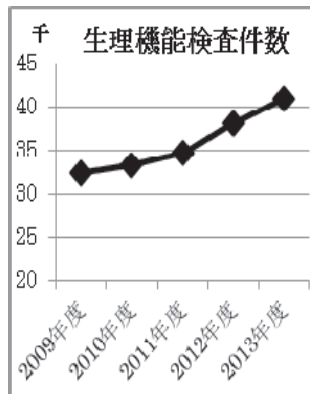
(外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	177	175	200	160	189	178	171	197	173	189	181	178	2,168
術中迅速病理組織標本作成	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
細胞診(婦人科材料)	382	402	446	369	321	392	473	409	403	357	321	397	4,672
細胞診(その他材料)	178	202	151	191	158	166	196	185	176	169	159	188	2,119
合 計	737	780	798	720	668	736	840	791	752	715	661	763	8,961

(入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
病理組織標本作成	165	196	202	221	242	211	243	215	197	241	211	228	2,572
術中迅速病理組織標本作成	17	13	19	20	18	25	24	22	19	25	19	20	241
細胞診(婦人科材料)	3	2	2	3	3	2	10	3	2	1	2	2	35
細胞診(その他材料)	37	25	37	46	30	42	40	41	38	43	42	44	465
合 計	222	236	260	290	293	280	317	281	256	310	274	294	3,313



＜生理機能検査部門＞

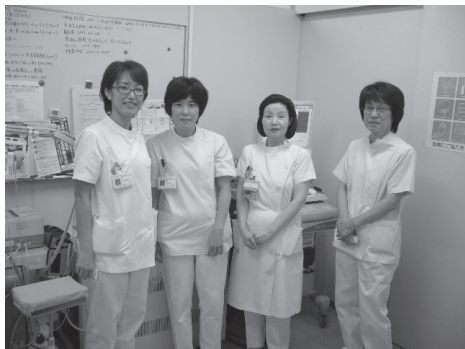
2013年度より頸動脈、下肢超音波検査枠を増加させ、造影超音波検査の技師による施行を開始し、待ち時間の短縮に努めている。耳鼻科外来へも出向し、耳鼻科領域の検査にも従事するようになった。また、薬剤に対する気道過敏試験は呼吸器内科の医師とともに実施し、呼吸抵抗検査も開始しており呼吸機能検査件数は増加している。実施件数は前年度と比較して、心臓超音波検査で約5%増、血管超音波検査については約2倍増であった。



生理機能検査 (外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	1,047	1,027	1,037	1,183	988	974	1,102	1,067	963	1,025	954	986	12,353
負荷心電図 (トレッドミル含む)	128	110	124	137	139	127	132	125	115	122	131	142	1,532
ホルター型心電図	38	35	40	26	26	27	46	36	33	27	24	37	395
簡易呼吸機能	276	245	254	321	249	279	299	273	270	289	296	286	3,337
精密呼吸機能	6	7	7	4	5	6	8	8	6	3	6	7	73
脳波	9	6	5	8	15	14	9	2	8	10	9	14	109
脳波(小児)	17	6	8	16	19	12	11	7	9	5	6	15	131
ABR (新生児)	7	3	3	12	7	9	8	4	8	3	5	4	73
ABI+CAVI	137	150	160	179	112	132	155	167	138	124	151	160	1,765
SPP	8	6	3	10	3	5	4	4	9	6	4	3	65
中心血圧	42	66	56	56	40	75	68	66	57	44	60	49	679
呼吸抵抗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	26	25	66
腹部エコー	402	415	396	467	390	361	417	398	381	350	331	360	4,668
表在エコー (甲状腺を含む)	72	70	81	84	79	36	76	56	54	68	73	73	822
乳腺エコー	88	93	99	86	83	75	90	90	67	77	82	93	1,023
心臓エコー	438	401	421	429	327	330	414	407	367	371	366	400	4,671
血管エコー	193	207	208	270	239	197	253	222	205	184	175	213	2,566
関節エコー	3	6	3	0	0	0	0	2	3	2	1	2	22
合 計	2,911	2,853	2,905	3,288	2,721	2,659	3,092	2,934	2,693	2,725	2,700	2,869	34,350

耳鼻科外来 聴力検査	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
標準純音	102	107	93	99	88	100	95	86	79	89	84	117	1,139
簡易聴検	168	181	175	197	183	165	202	170	160	149	135	192	2,077
気骨導(L)	7	2	4	5	2	5	11	3	4	5	6	3	57
気骨導(R)	2	2	2	2	4	2	5	1	4	3	3	4	34
ABLB	4	1	3	0	3	8	0	1	2	1	1	5	29
SISI	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	5
ティンパノ	53	72	52	55	42	46	35	52	43	42	42	63	597
耳小骨筋	8	4	5	4	5	9	1	9	5	8	5	11	74
OAE	10	5	10	9	4	4	4	2	6	7	3	6	70
電気味覚	4	6	3	2	3	7	2	5	4	6	8	3	53
ディスク味覚	1	3	1	0	0	1	3	0	1	1	4	1	16
語音	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
aABR	2	1	1	0	1	1	0	0	1	0	0	1	8
ABR	4	3	2	11	7	13	5	2	1	4	2	5	59
ASSR	2	1	3	6	5	6	7	2	0	3	2	4	41
ENoG	4	4	2	1	3	5	2	6	4	6	4	3	44
グリセロール	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
音場語音	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
音場閾値	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
日記	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	379	395	358	392	350	373	373	340	315	324	299	420	4,318

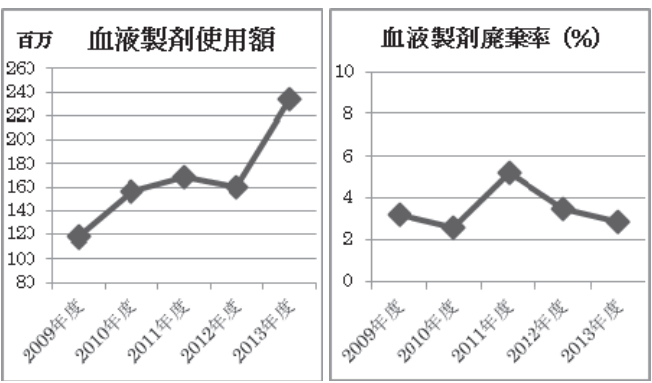
生理機能検査 (入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
心電図	148	162	168	164	138	158	179	170	156	148	139	164	1,894
負荷心電図 (トレッドミル含む)	12	4	18	24	11	15	12	5	7	11	13	6	138
ホルター型心電図	1	2	3	4	2	4	2	1	2	1	4	1	27
簡易呼吸機能	2	25	25	33	30	35	27	19	30	32	33	33	324
精密呼吸機能	1	2	2	0	0	0	0	1	2	1	1	0	10
脳波	5	6	5	4	6	5	4	5	3	11	7	7	68
脳波(小児)	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	6
ABR (新生児)	56	61	43	65	61	47	46	48	59	64	46	53	649
ABI・CAVI	29	26	22	37	29	22	27	21	30	22	24	20	309
SPP	1	1	2	6	3	0	0	4	1	3	1	3	25
中心血圧	4	2	5	0	0	2	0	0	1	1	3	0	18
呼吸抵抗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
腹部エコー	55	56	53	65	96	62	87	70	76	84	83	113	900
表在エコー (甲状腺を含む)	1	6	2	3	4	8	3	0	0	4	4	3	38
乳腺エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓エコー	126	120	122	137	155	161	170	157	163	179	137	159	1,786
血管エコー	28	37	38	43	33	52	59	42	62	42	46	54	536
関節エコー	0	2	1	1	1	1	1	0	1	0	2	2	12
合 計	469	514	509	586	569	572	617	544	593	604	544	620	6,741



< 輸血検査(輸血部)部門 >

2013年4月の救命センターとの移管統合を迎え、技師全員が三次救急患者の異型適合血輸血や緊急大量輸血に対応できるようにマニュアルを作成し、トレーニングを実施した。移管統合後に緊急大量輸血に備えて血液製剤の在庫数を増やしたが、かえって廃棄率が上昇してしまった。廃棄率を下げるために数回にわたり在庫数の見直しを行った。

また、病院機能評価受審を機に輸血療法マニュアルの改正を行った。



輸血関連検査 (外来)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	429	487	465	531	496	502	525	502	510	495	512	511	5,965
スクリーニング	94	103	94	100	129	114	127	142	139	143	131	137	1,453
直接クームス試験	53	3	3	2	1	1	1	2	2	3	1	1	73
間接クームス試験	2	90	79	78	83	77	101	94	80	95	75	77	931
合 計	578	683	641	711	709	694	754	740	731	736	719	726	8,422

輸血関連検査 (入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液型検査	137	134	148	145	145	111	145	140	138	146	132	120	1,641
スクリーニング	4	3	1	1	0	1	1	1	3	4	2	2	23
直接クームス試験	1	2	4	0	2	2	2	2	0	3	3	0	21
間接クームス試験	22	16	37	15	20	9	32	28	17	23	15	14	248
合 計	164	155	190	161	167	123	180	171	158	176	152	136	1,933

輸血検査、血液製剤使用額、廃棄額(外来・入院)	4月	5月	6月	7月	8月	9月
血液交差試験(RCC)(単位数)	785	1,019	886	867	1,276	1,127
血液交差試験(FFP)(単位数)	772	658	530	480	1,008	936
血液交差試験(PC)(単位数)	805	635	565	850	1,645	670
自己血貯血(単位数)	20	34	16	19	22	22
血液製剤使用額(千円)	12,287	15,122	12,850	15,075	27,971	18,723
血液製剤廃棄額(千円)	404	492	647	310	182	224
RCC廃棄率(%)	5.6	7.0	8.1	5.7	1.4	2.8

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液交差試験(RCC)(単位数)	1,270	1,314	1,277	1,160	1,139	1,016	13,136
血液交差試験(FFP)(単位数)	1,038	876	946	1,062	988	712	10,006
血液交差試験(PC)(単位数)	780	1,350	1,080	895	1,315	985	11,575
自己血貯血(単位数)	27	15	20	33	16	23	267
血液製剤使用額(千円)	20,601	24,991	23,010	20,906	24,493	18,331	234,358
血液製剤廃棄額(千円)	156	146	17	86	374	17	3,057
RCC廃棄率(%)	0.6	0.8	0.2	1.0	1.1	0	

